特集 消防団
FIRE VOLUNTEER

燃え尽きることのない 火消しの魂

年末特別警戒(12月)

普通救命講習

消防出初式(1月)

阪神淡路大震災から20年。大震災から得た教訓の一つが、災害が大きくなればなるほど、地域で即時対応できる防災体制が重要であるということ。地域の防災力向上を図るためには、「自助」「共助」「公助」が相互に連携することが必要です。その中核としての役割を果たし、地域防災力を強化するうえで欠かすことのできない存在、それが消防団です。

消防団とは

消防団は、「常備消防」と呼ばれる消防本部・消防署などとは異なり、「非常備消防」と呼ばれる、地域に住む一般市民の有志で構成された組織で、法に基づき、全国の各市町村に設置される消防機関です。

消防団員は、普段、会社勤めや自営業など、それぞれの仕事に就きながらも、仕事の合間を縫い、定期的に集まり、訓練や用具の点検などを行っています。また、ひとたび火災や災害が起きれば消防団員として出動し、消火・救助活動や捜索、災害防ぎょ活動にあたります。

消防団員は、必要な時に集まる特別職の地方公務員でありながら、地域の住民であり、隣近所顔見知りの仲間なのです。

消防団の使命

消防団員は「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づき、昼夜を問わず消防・防災活動にあたっています。

これは江戸時代の「町火消し」以来の伝統であり、その基本精神は現代においても変わることはありません。

組織構成

県下最大の団員数を誇る本市消防団では、各地域に10の「方面隊」（長浜西、長浜東、浅井、びわ、虎姫、湖北、高月、木之本、余呉、西浅井）を組織し、全部で32ある「分団」が地区毎におかれ、地域に密着した活動を行っています。

全国的に少子高齢化が進む中、消防団員の高齢化も進んでおり、また、会社勤めの人が増えています。

そんな中、愛するまち、そして大切な人を守るために行動する消防団員の内なる『想い』をお届けします。

―地域住民の協力に感謝

長浜市消防団長
瀧川 眞吾さん

消防団の活動は、市民の皆さんのご理解やご協力なくして行えるものではありません。

昨年は、本市においては幸いにして大きな災害に見舞われることもなく、今日を迎えることができました。これもひとえに、市民の皆さんが普段から夜回り等による防火啓発などに尽力いただいているおかげと感謝しています。

―絆を大切にしながら使命を果たす

市内全域で1900人余りの消防団員が活動しており、いざ災害が発生した場合は、身近で心強い味方となります。

消防団の使命である「地域に密着した消防機関として、あらゆる災害から地域住民を守る」を胸に、常日ごろから有事の際に迅速に活動できるよう、消防団員は日々の訓練を重ねています。

これからも、地域住民や家族との絆、さらには消防団員相互の絆を大切にしながら、安全で安心して暮らせるまちづくりをめざし活動してまいりますので、引き続きよろしくご支援いただきますようお願い申しあげます。

びわ方面隊長
藤田 勝一さん

市内の商工会に勤務する藤田さん。今年の消防出初式において、栄えある滋賀県消防協会長「功績章」を受賞。よく通る低い声と機敏な動き、そして団員思いの人柄でびわ方面隊を率い、指揮・指導にあたります。

―団員としての心構え

びわ地域には、姉川と高時川が合流する地点があり、出水期ともなると、しばしば水位が上昇し、地域が危険にさらされます。

あらゆる水火災に対応していく備えとして、寝るときはいつも携帯を枕元に置き、ヘルメットや長靴、消防服は車に積み、すぐに出動できる態勢をとっています。

また、火災現場等での指揮や訓練の指導を行う立場から、消防団員たちの安全確保を常に意識しています。

昨年、びわ方面隊では地域住民の皆さんに向け、消防団への理解や取組みの紹介、火災予防啓発などと合わせ、団員名簿を載せました。消防団活動は地域に開かれたものであり、地域で防災活動を行う消防団員を、まず地域の人たちに知ってもらうことが重要だと考えたからです。

消防団は、これまで地域の皆さんに大切に育てていただいてきました。これからも住民の皆さんとともに、災害に対する意識を深めながら、地域の防災リーダーとして、迫りくる「その時」に備えていきます。

▲水防訓練で土のう作りに取り組む団員(びわ方面隊)